



例題と解説

例題 1

$\frac{2}{3}$ や $\frac{5}{7}$ のように分子が分母より小さい分数を何分数といいますか。

答え 真分数

[例題 1 の解説]

分子が分母より小さい分数を「^{しんぶんすう}真分数」といいます。

また、 $\frac{2}{2}$ や $\frac{5}{3}$ や $\frac{13}{6}$ のように分子と分母が同じか、分子が分母より大きい分数を「^{かぶんすう}仮分数」といいます。

例題 2

$\frac{7}{3}$ を帯分数に直しなさい。

答え $2\frac{1}{3}$

[例題 2 の解説]

$2\frac{3}{4}$ のように整数と真分数の和で表した分数を「^{たいぶんすう}帯分数」といいます。

仮分数 $\frac{7}{3}$ を帯分数に直します。 $7 \div 3 = 2$ あまり 1 より、 $\frac{7}{3} = 2\frac{1}{3}$



例題と解説

例題 3

$\frac{12}{4}$ を帯分数、または整数に直しなさい。

答え 3

[例題 3 の解説]

仮分数 $\frac{12}{4}$ を帯分数、または整数に直します。 $12 \div 4 = 3$ より、 $\frac{12}{4} = 3$

仮分数の分子が分母で割り切ることができれば分数ではなく整数に直すことができます。

仮分数のまま答えずに帯分数や整数に直して答えましょう。

例題 4

$4\frac{2}{5}$ を仮分数に直しなさい。

答え $\frac{22}{5}$

[例題 4 の解説]

$5 \times 4 + 2 = 22$ より、 $4\frac{2}{5} = \frac{22}{5}$



例題と解説

例題 5

3 m と $\frac{5}{6}\text{ m}$ をあわせて何 m ですか。

答え $3\frac{5}{6}\text{ m}$

[例題 5 の解説]

$$3 + \frac{5}{6} = 3\frac{5}{6}(\text{m})$$

3 m より $\frac{5}{6}\text{ m}$ 長いのが $3\frac{5}{6}\text{ m}$ です。

例題 6

$\frac{9}{4}\text{ m}$ は 2 m とあと何 m ですか。

答え $\frac{1}{4}\text{ m}$

[例題 6 の解説]

仮分数 $\frac{9}{4}$ を帯分数に直します。 $9 \div 4 = 2$ あまり1 より、 $\frac{9}{4} = 2\frac{1}{4}$

よって、 $\frac{9}{4}\text{ m}$ は 2 m と $\frac{1}{4}\text{ m}$ です。



例題と解説

例題7

7 ÷ 5 を分数で表しなさい。

答え $1\frac{2}{5}$

[例題7の解説]

$$7 \div 5 = \frac{7}{5} = 1\frac{2}{5}$$

ポイントまとめ

- ・ $\frac{3}{4}$ のように分子が分母より小さい分数を「しんぶんすう真分数」といいます。
- ・ $\frac{5}{2}$ のように分子が分母より大きい分数を「かぶんすう仮分数」といいます。
- ・ $4\frac{2}{3}$ のように整数と真分数の和で表した分数を「たいぶんすう帯分数」といいます。
- ・ 仮分数 $\frac{5}{3}$ を帯分数に直すと、 $5 \div 3 = 1$ あまり 2 より $1\frac{2}{3}$ となります。
- ・ $\frac{12}{3} = 4$ 、 $\frac{2}{2} = 1$ のように分子が分母で割り切ることができる分数は整数に直すことができます。
- ・ 特に指定がなければ仮分数のままにせず、帯分数や整数で答えましょう。
- ・ $3 \div 7 = \frac{3}{7}$, $11 \div 3 = \frac{11}{3} = 3\frac{2}{3}$